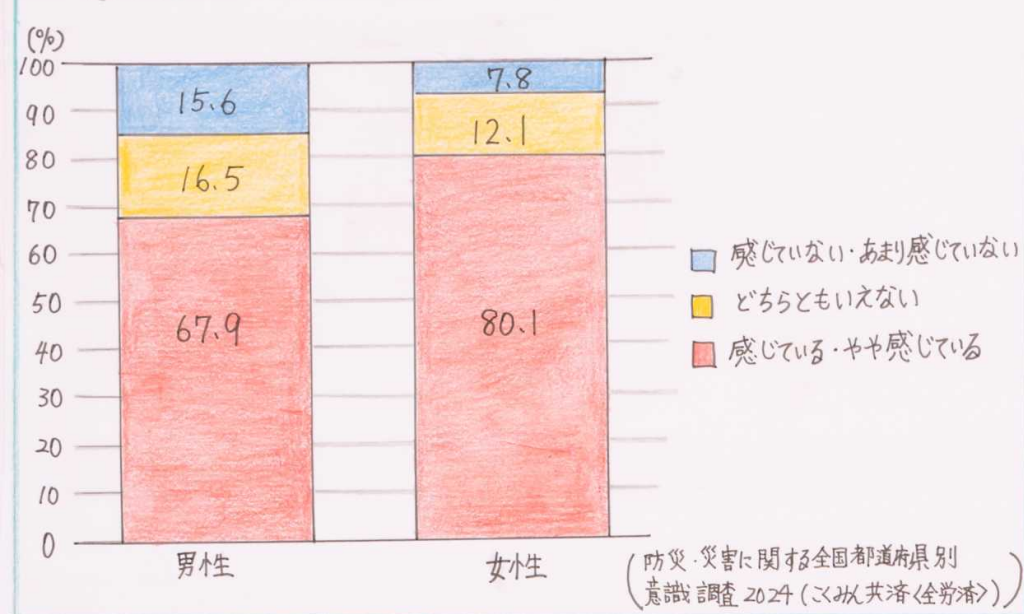


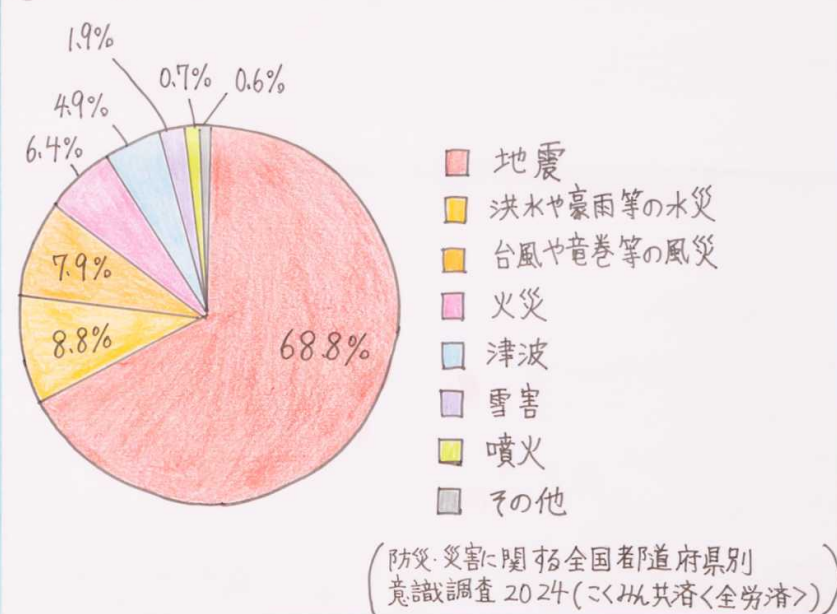
「そのうち」ではない! 私達の防災は「今日から」!

安藤 大翔

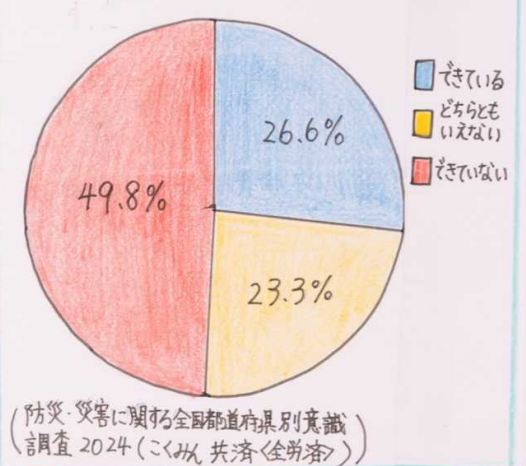
① 災害に対して不安に感じている割合



② 一番不安に感じている災害の割合

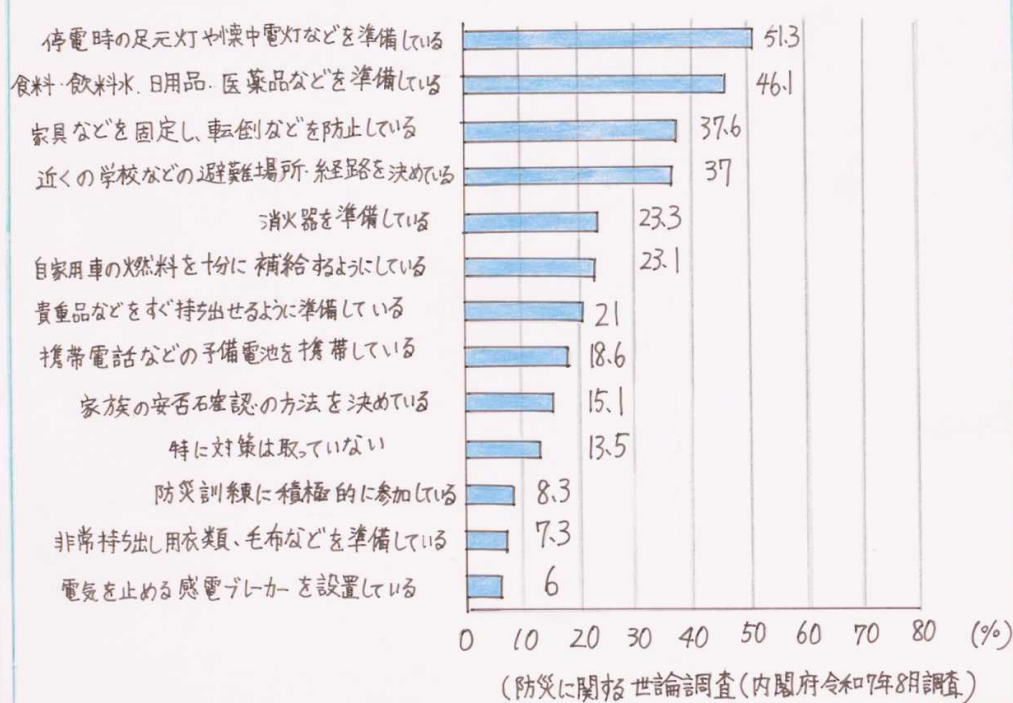


③ 在宅時の災害に対する備えができていると思う割合

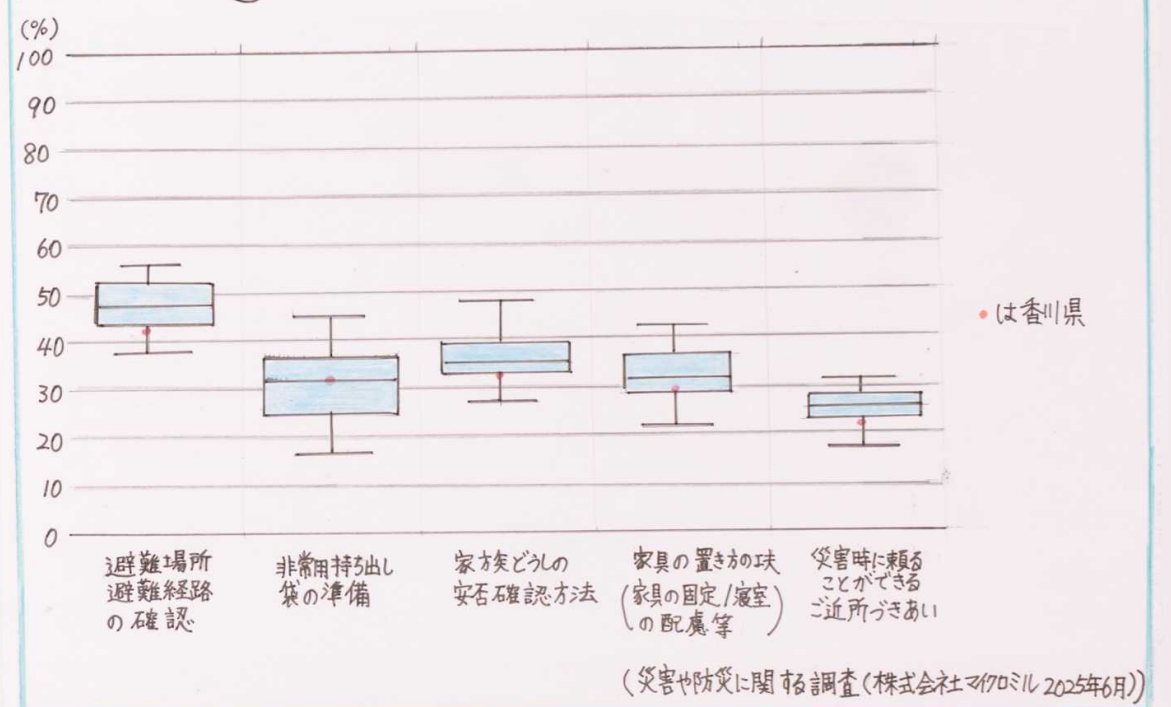


(考察) ・国民の災害に対する不安は6割以上と高く、地震が1番不安に感じている災害である。
・災害に対しての備えは十分ではなく防災に対して行動することができていない。

④ 大地震に備えての対策

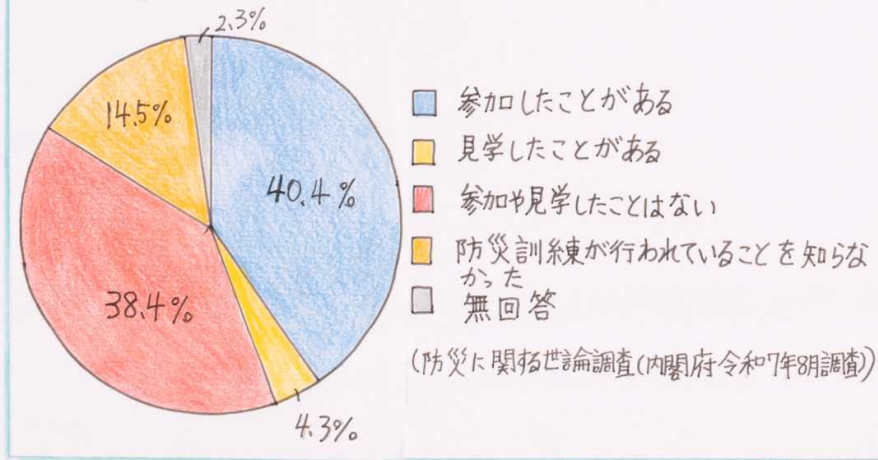


⑤ 47都道府県の分野別準備についての分布

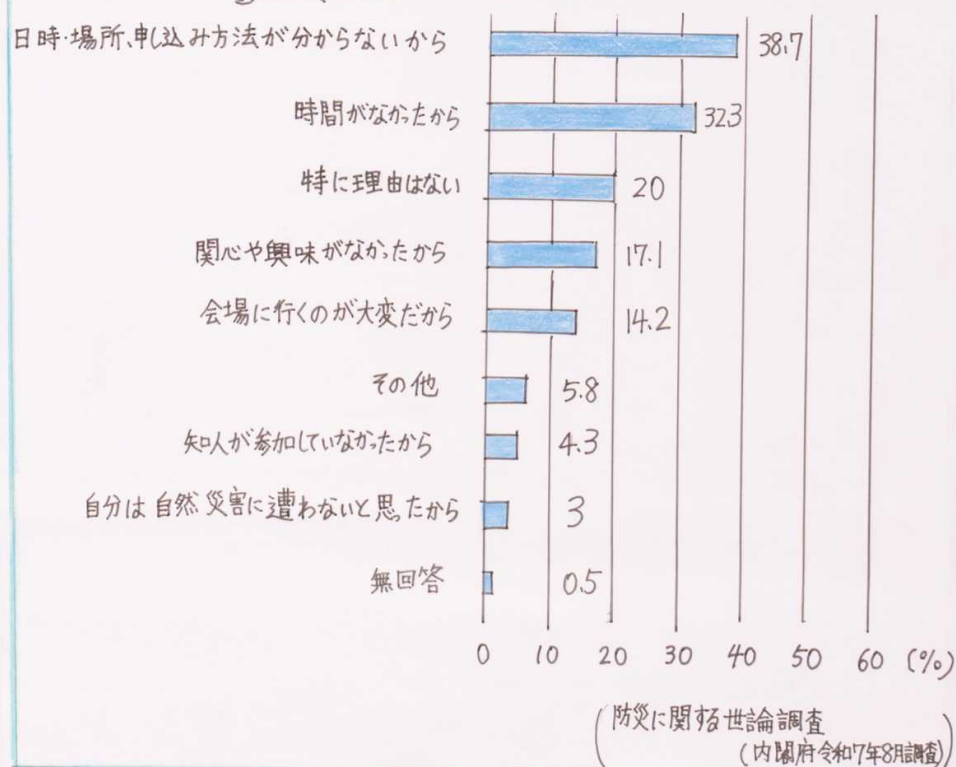


(考察) ・大地震に対しての備えは、1番できている項目で約5割程度であり、対策は不十分である。
・都道府県別にみても災害の有無により都道府県によって差があると考えられる。
・災害時に頼ることのできる近所づきあいは全体的にまとまってできていない。

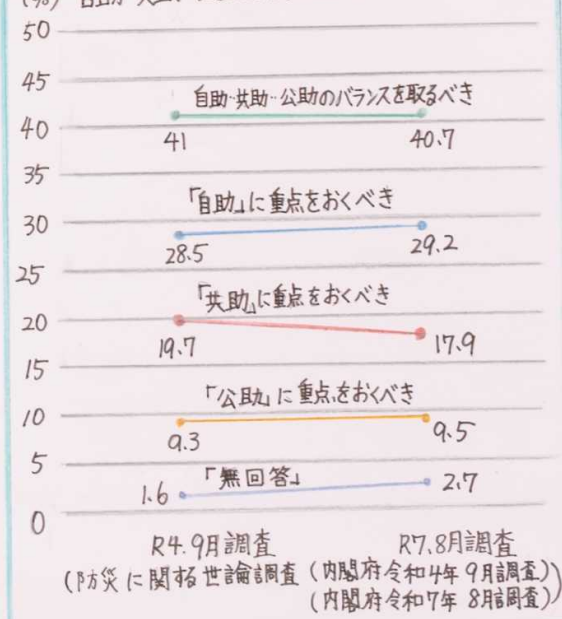
⑥ 防災訓練の参加又は見学の有無



⑦ 防災訓練に参加又は見学したことがない理由



⑧ 自助・共助・公助のうち、重点をおくべき対応



(考察) ・防災訓練に参加したことがない人は約5割であり防災に対する意識の低さがわかる。
・自助や共助・公助のうち重点をおくべき文対応としては、共助が低くなっている。
これらのことから地域の結びつきが薄れてきていることがわかる。

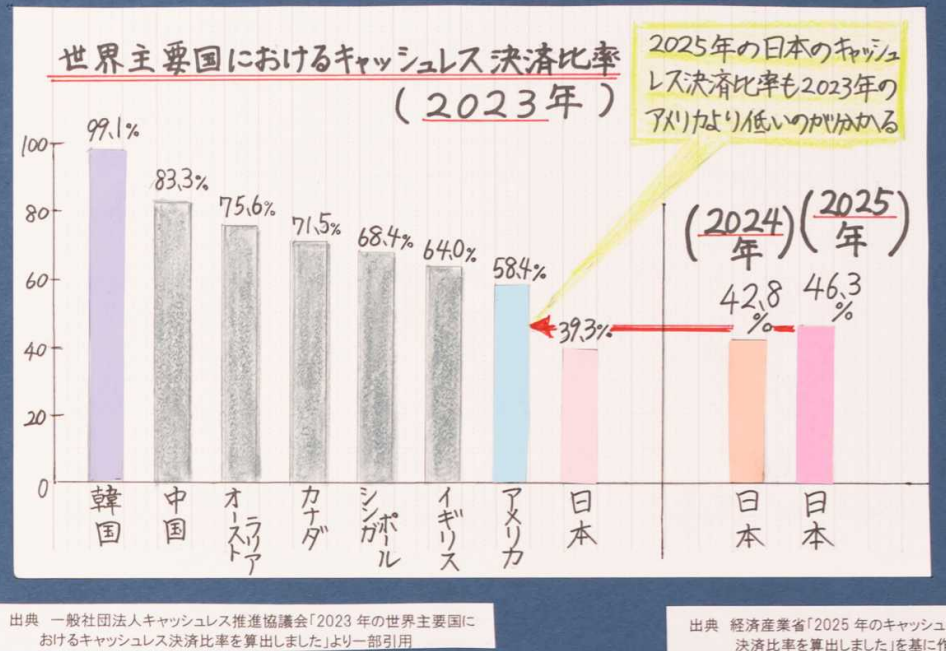
(まとめ) ・災害に対する備えが全体的にも不十分であり、また共助が低くなっていた。
大きな災害が起きた時私達にできるのは自助と共助である。一人一人が自分を
守り、地域を守るため、今日から防災の意識を持ち、備えていくことが重要である。

高校生も キャッシュレス 決済利用!?

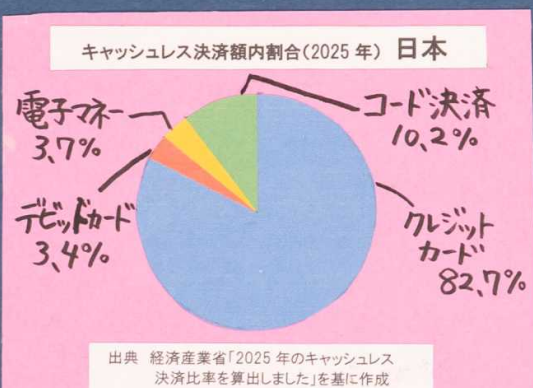
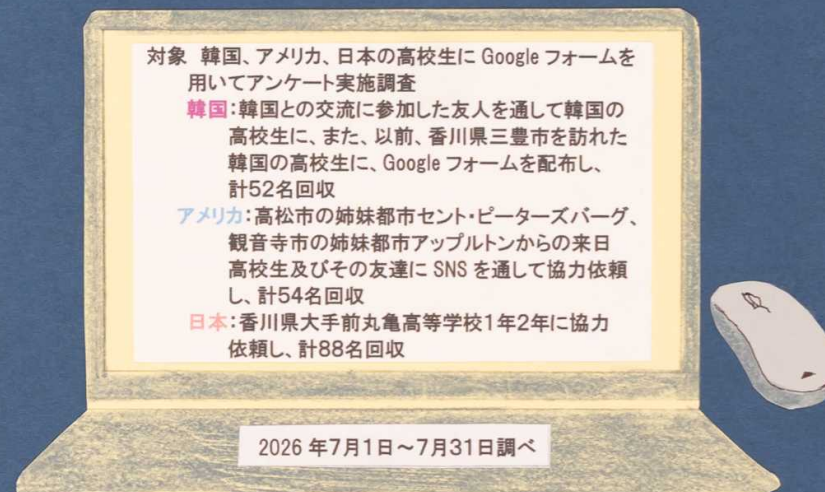
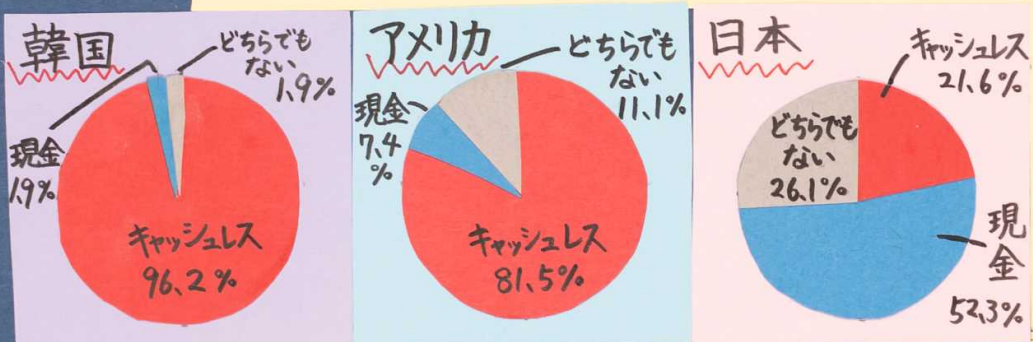
～日米韓の高校生の実態 比較を通して～

<はじめに>

近年、コロナ禍でのキャッシュ離れや2025年大阪・関西万博における完全キャッシュレスの導入などもあり、私自身も生活の中でキャッシュレス決済の広がりを実感している。しかし、「世界主要国におけるキャッシュレス決済比率」をみると、日本はまだまだ他国に追いついていない(右のグラフ)現状を知った。2025年の日本のキャッシュレス決済比率(国際比較指標)は前年度より伸びたものの2年前の2023年の比較グラフ(右)でも、他国と順位を変えることはない。そこで、大人になる手前の私と同じ世代の高校生に焦点をあて、その年代でもキャッシュレス決済の利用実態に他国との違いはあるのかという疑問をもち、アンケートによる調査を行った。(右のグラフの1位韓国と2025年の日本の決済比率と比較的近いアメリカにしばって、調査し比較した。)))



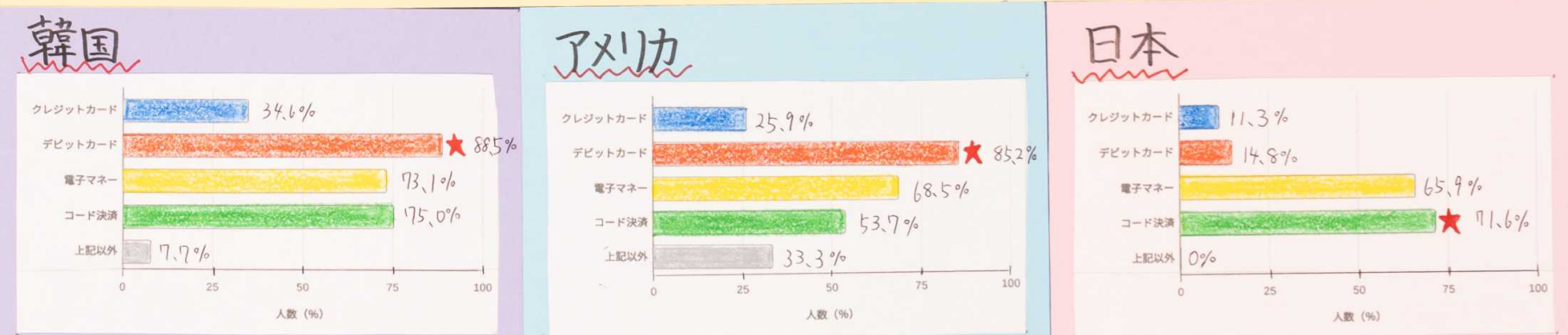
Q1 最近(2026年1月～7月)自分自身が日常的に支払いに利用するのは、現金払い、キャッシュレス決済のどちらが多いですか? ※どちらでもない = どちらもほぼ同じくらいの頻度で使っている。



日本は、クレジットカードが82.7%を占め、最大のキャッシュレス決済手段となっている。しかし日本では、原則として、高校生はまだ自か名義のクレジットカードが作られないこともあり、高校生の実態は上の内訳とは違うと思ひ、他国の高校生との比較も交えて、アンケートQ2を行った。

Q2 使用したことがあるキャッシュレス決済方法はなんですか? (複数回答可)

そのうち、最もよく使うと答えた決済で回答が一番多かったもの... ★

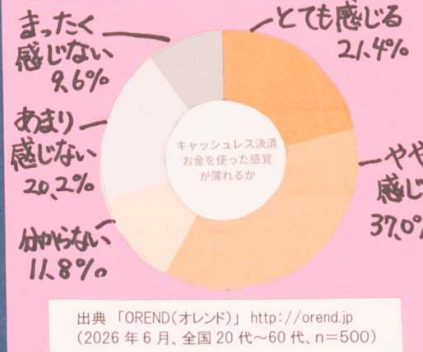


Q3 何歳からキャッシュレス決済を使っていますか?



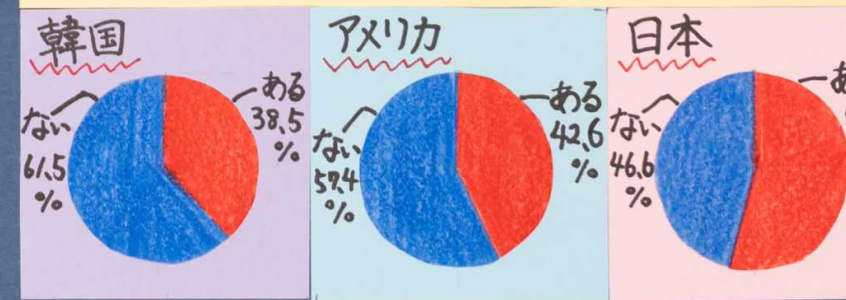
キャッシュレスの進んでいる韓国は、14歳までに7割もの子供たちがキャッシュレス決済を利用していた。日米ともに小学生から高校生にかけて徐々にキャッシュレス決済を利用する子が増えている。日本は高校生でもキャッシュレスより現金派の人はいるが、アメリカは遅くても高校生のうちには調査した全員がキャッシュレス決済を使い始めていた。

<日本>キャッシュレス決済でお金を使った感覚が薄れる?



過半数の人がキャッシュレス決済によりお金を使った感覚が薄れると感じていることがわかった。キャッシュレス決済は非常に便利だが「見えないお金」をカードやスマホ一つで簡単に支払ってしまうので、お金を使う(自分のお金が減る)感覚は薄れてしまうのかなと思った。

Q4 キャッシュレス決済について学校で学んだことはありますか?



経済産業省は2030年までにキャッシュレス決済比率を国際比較指標で55%(国内指標で65%)にするという中間目標を立てている。つまり2023年のアメリカのキャッシュレス決済比率に近づくことになる。日本のキャッシュレス化はこれからもっと進んでいき、今回調査した高校生の実態より将来はもっとキャッシュレス決済利用は増え、韓国やアメリカの実態のように向かっていくのかもしれない。キャッシュレス決済は、メリットが多い一方で、使いやすさ、お金を使った感覚が薄れてしまう。一人でアメリカのキャッシュレス決済の正しい知識、判断力を身につけておくことがこれからの社会では必要だと思った。

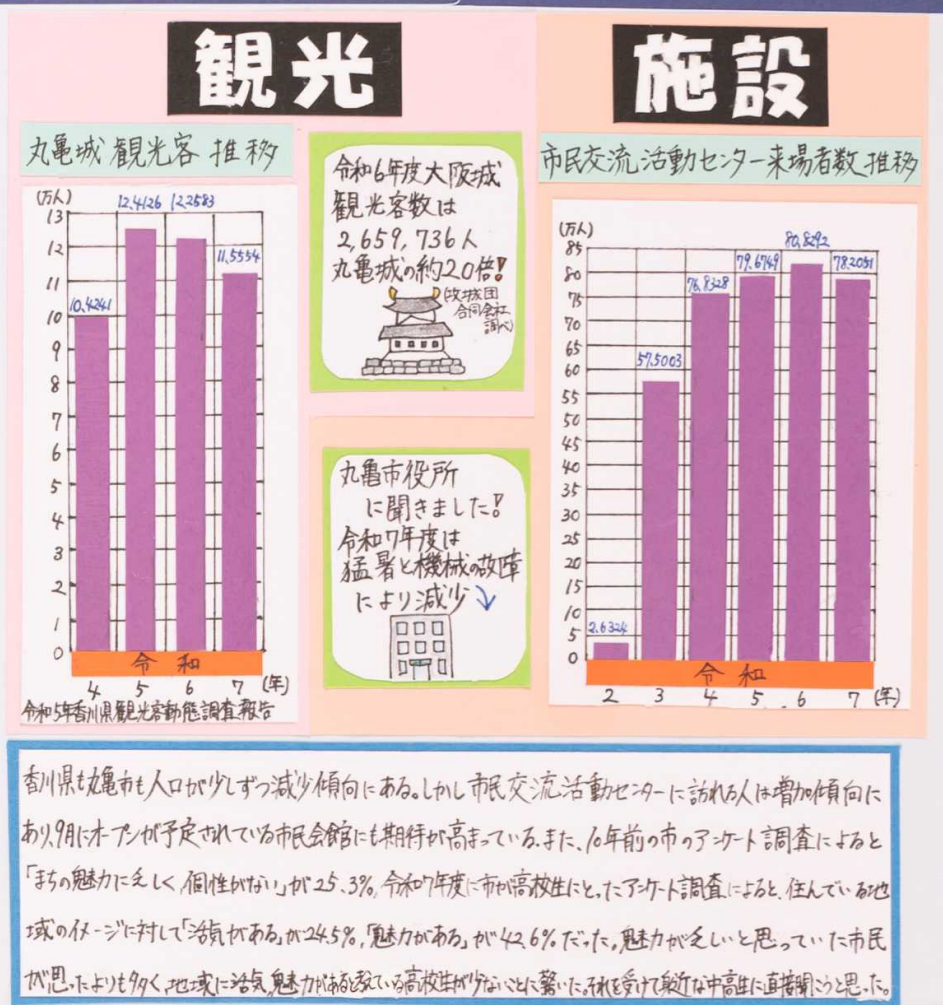
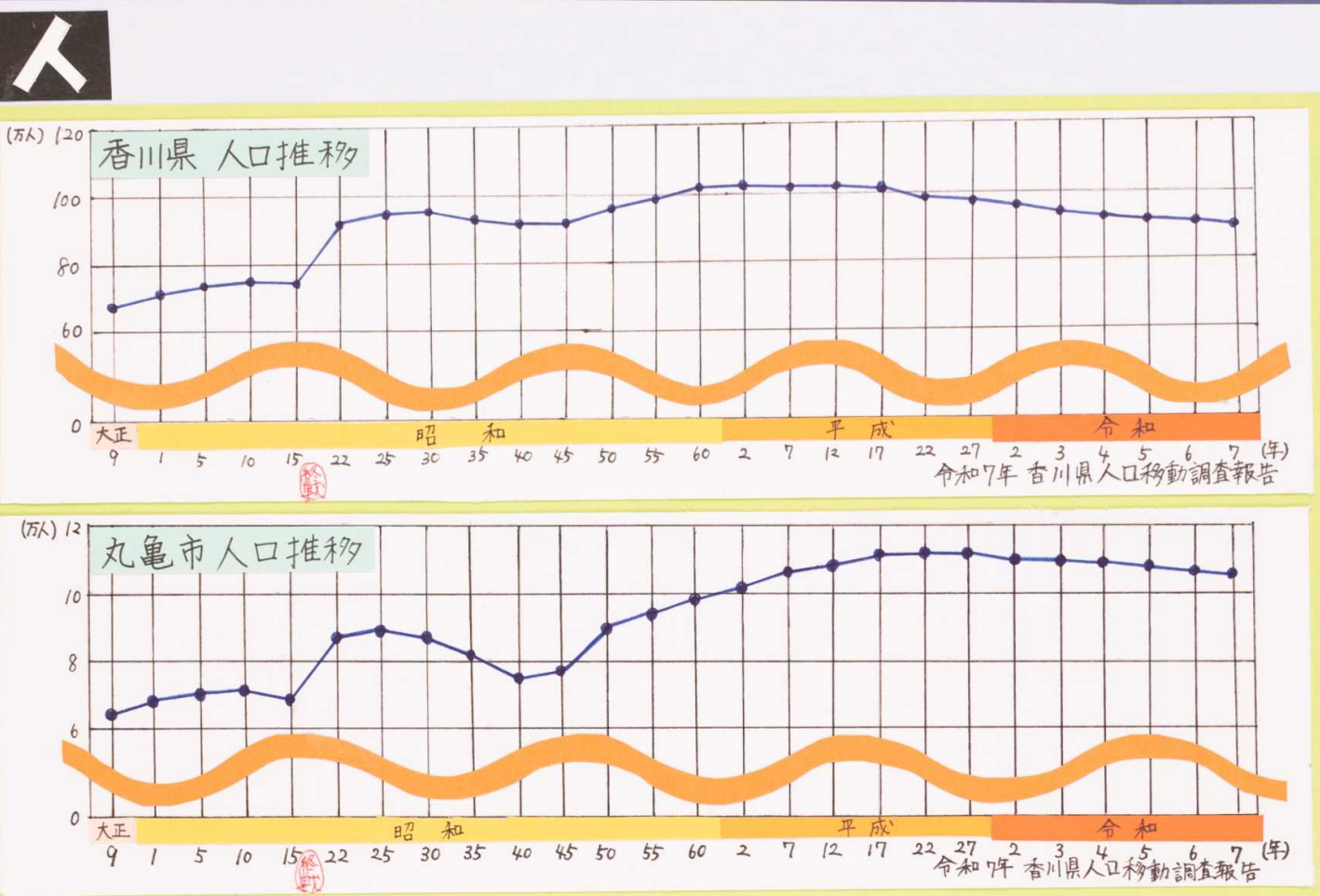
調査を振り返って日本にながら外国の高校生へのアンケート回収は大変だった。他の外国の高校生にもアンケート実施をお願いし、頑張ったが、数がなくて断念した国も多かった。たくさんの方の協力のおかげで、かなりの協力の上に調査できたことに心から感謝します。

まとめ・感想

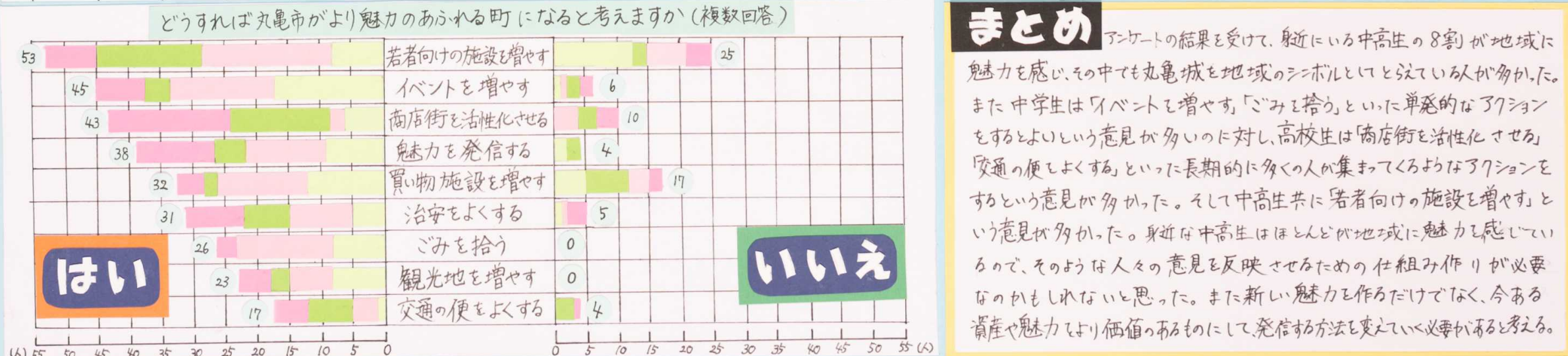
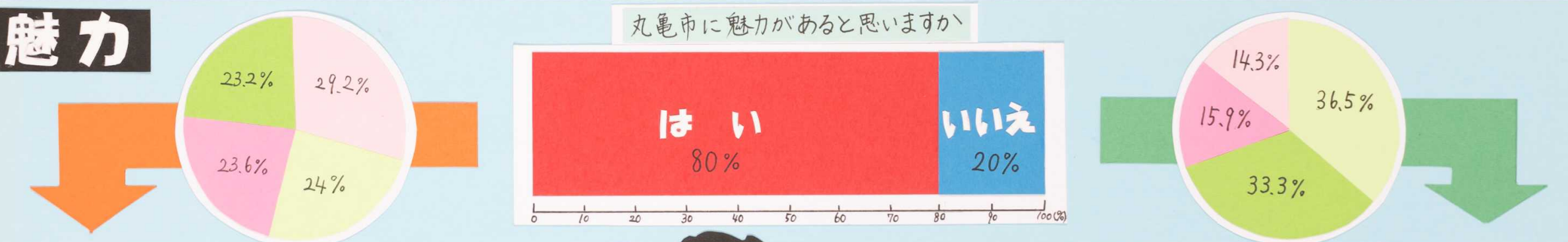
中 高 生 が 考 える 地 域 活 性

in 丸亀市
 大手前丸亀中学・高等学校
 中学生男子 83名
 中学生女子 82名
 高校生男子 79名
 高校生女子 69名
 合計 313名
 2026年7月24日 公開

はじめに 校内ボランティアで地域の特産物を使用したカフェを企画・開催したのをきっかけに、生産者や地元企業の経営者と繋がることができました。そこでは、「もっと地域が元気になるには」「こんなにも地域には誇れる宝があるのに」という寂しい声を耳にしました。これからは、未来へのバトンを受け継ぐだけでなく、自分たちが描く未来を共創する存在であると感じた出来事でした。現実の地域課題は「人口」「施設」「観光」「まちづくり」「防災」「文化・歴史」「経済・産業」「交通」など多岐にわたりますが、丸亀市に通学している中高生が地域課題をどのように考えているのかを把握することで、これからの地域のあり方を考えるべくアンケート調査を実施しました。



今の中高生はどう思っているの？



まとめ

アンケートの結果を受けて、身近にいる中高生の8割が地域に魅力を感じ、その中でも丸亀城を地域のシンボルとしてとらえている人が多かった。また中学生は「イベントを増やす」「ごみを拾う」といった単発的なアクションをするよという意見が多いのに対し、高校生は「商店街を活性化させる」「交通の便をよくする」といった長期的に多くの人が集まってくるとなるとアクションをするという意見が多かった。そして中高生共に「若者向けの施設を増やす」という意見が多かった。身近な中高生はほとんどが地域に魅力を感じているので、そのような人々の意見を反映させるための仕組み作りが必要なのかもしれないと思った。また新しい魅力を作るだけでなく、今ある資産や魅力により価値のあるものにして、発信する方法も変えていく必要があると考える。

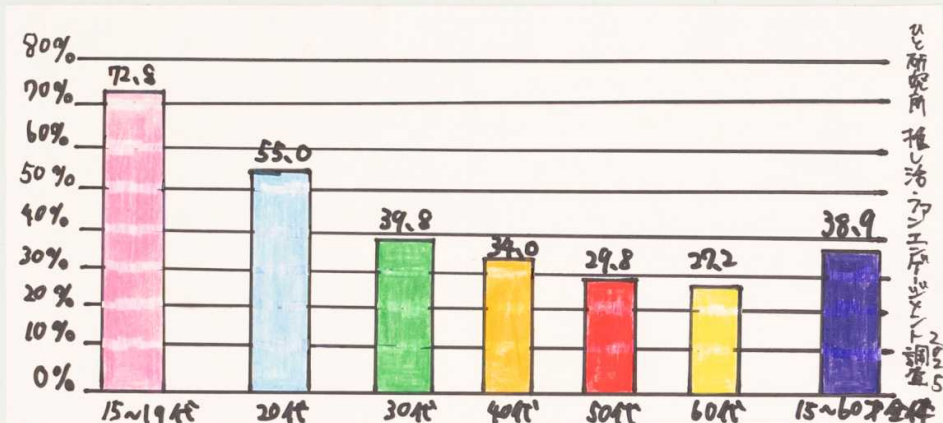
ハマリすぎ注意!

推し活実態調査

～データで知る「熱量」と「経済効果」のリアル

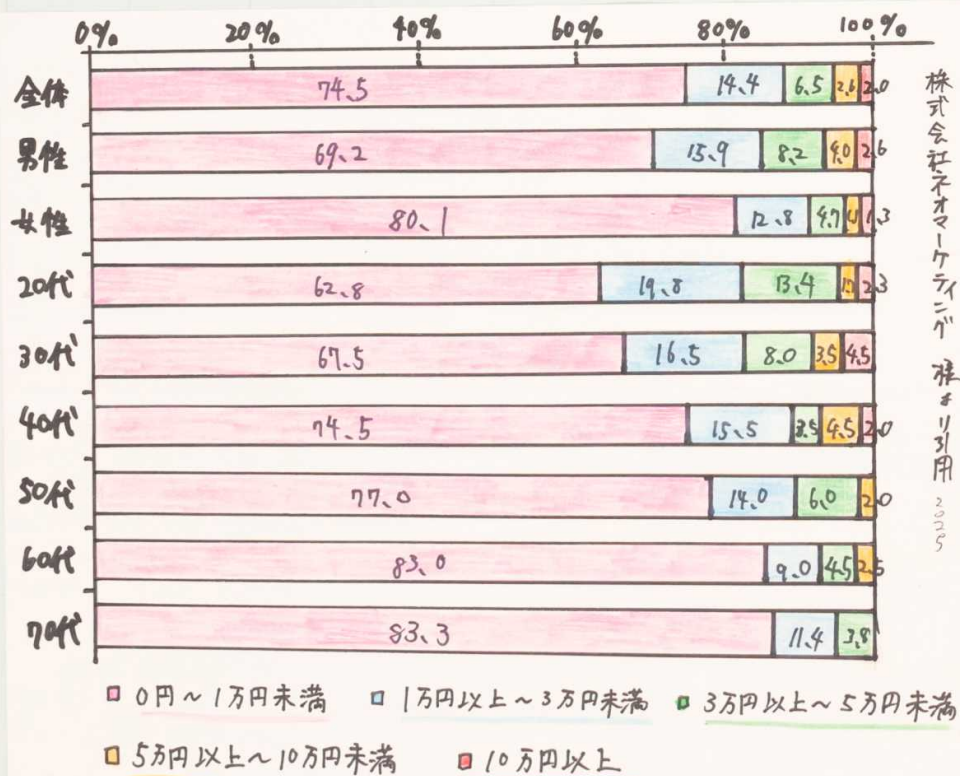
1 はじめに

みなさんには「推し」はいますか?
あるネットの調査で、約1万4000人を対象に、
「推し」がいる・あるかどうかについて質問した結果、
15～60才全体では**38.9%**が「推し」がいると
回答したそうです。



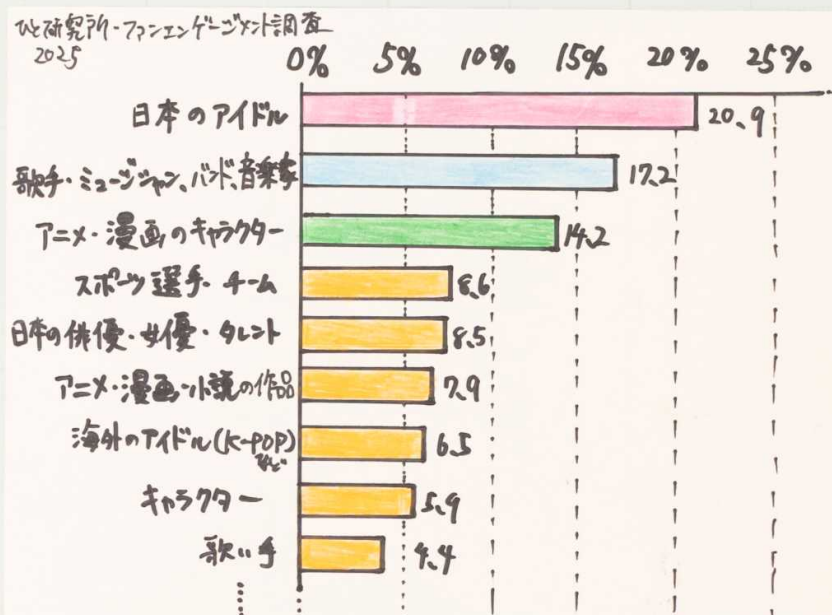
年代別に見ると、40才以上の中高年でも4人に1人は
「推し」がいることが確認できます。
また、15～19才では7割の人に「推し」がいます。

3 推し活に費やしている金額 (月平均)



全体の**74.5%**が、月平均**1万円未満**という結果のようです。
2%の方が月に**10万円以上**費やしているようでびっくりしました。
女性より男性の方が高い金額を費やしています。
年代が上がっていくにつれ、徐々に推し活に費やす
金額が下がっていく傾向があります。

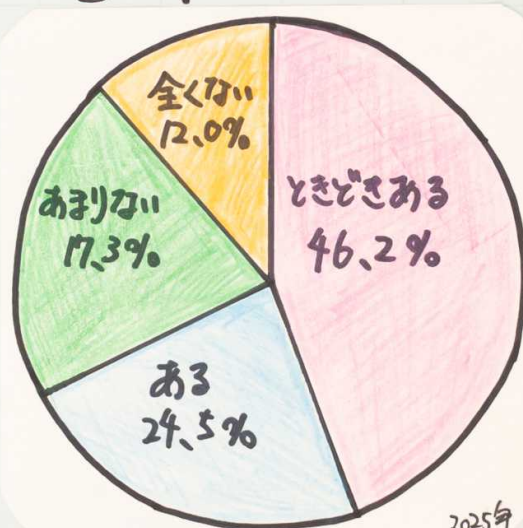
2 最も多い「推し」のジャンルは?



- 1位「日本のアイドル」
(20.9%)
- 2位「歌手・ミュージシャン・
バンド・音楽家」
(17.2%)
- 3位「アニメ・漫画のキャラクター」

実在する人物を推す人が多いようです。

4 推し活で感じる負担や大変さについて



「推し活を続ける中で、「負担」や「大変さ」を
感じる瞬間はあるかどうかを質問した結果
です。(249名の18～29才の女性調査)

「ときどきある」46.2%、「ある」24.5%
「あまりない」17.3%、「全くない」12.0%

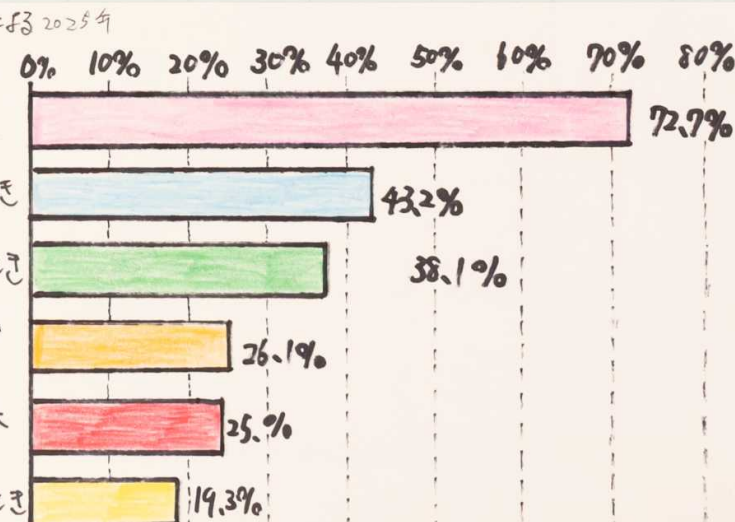
「負担」や「大変さ」を感じた人が、**全体で
70.7%**もいるそうです。

次はそれらがどのような時に感じるか見ていきます。

調査では推し活
疲れの最大大きな
要因として
「費用負担」
(72.7%)
が挙げられています。
本来推し活は日常
生活のいやしとなる
活動のはずですが、
楽しさと同時に負担
を感じやすいものへと変化している
ようです。

株式会社システムリサーチによる2025年
「推し活疲れ実態調査」より引用

グッズやチケットなど、
費用面の負担を感じたとき
情報量が多すぎて追いつけず大変なとき
忙しくて時間的余裕がないうとき
イベント・発売スケジュールが
重なったとき
SNSやコミュニティの交流に
気をつかうとき
「全部追いきれぬ」と感じたとき



5 感想

推し活は、人生に「楽しさ」と「生きがい」を与えて
くれる素晴らしい文化ですが、「自分自身の
生活や心を壊さない範囲で行い、無理を
しないこと」が大切だと思います。

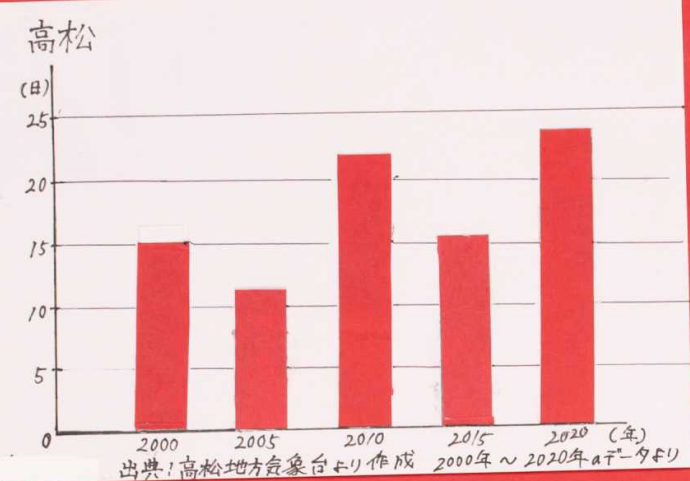
温暖化と生きる私たちの夏

～データから見る熱中症リスク～

①原因: 気候変動の実態

年別の猛暑日の日数推移

＜資料1＞



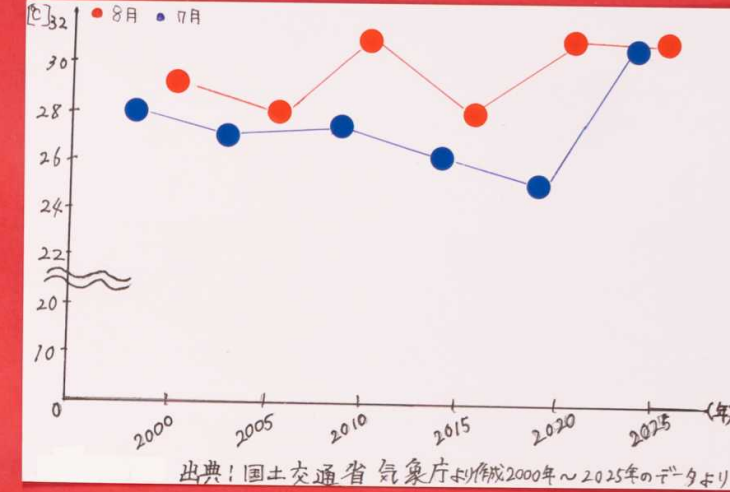
ここ数十年間の間で
猛暑日(35℃以上)や
平均気温が
過去最高になってきて
いることが分かる

「変わる夏の基準」

2000年以降の猛暑日数は、
変動を繰り返しながら高い水準で
推移しています。特定の猛暑の年には
日数が跳ね上がる一方、比較的
少ない年もあり、厳しい暑さが
続いている実態が読み取れます。

月別の平均気温の年次比較

＜資料2＞



「高止まりする夏の平均気温」

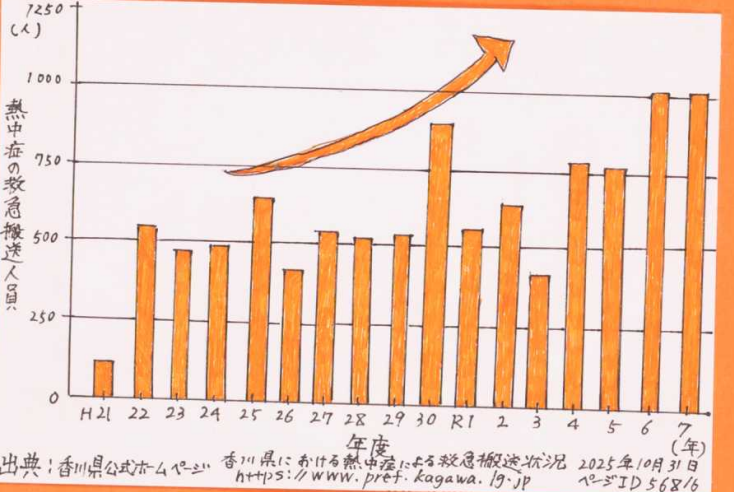
7月・8月は年ごとに上下するものの、全体としては「低い年」に戻らなくなっています。かつてのような冷涼な夏は影を潜め、暑い基準がそのまますり上がっていることが読み取れます。

地球温暖化
気候変動が
身近な脅威に
なっています！

②現状: 熱中症救急搬送者数の増加

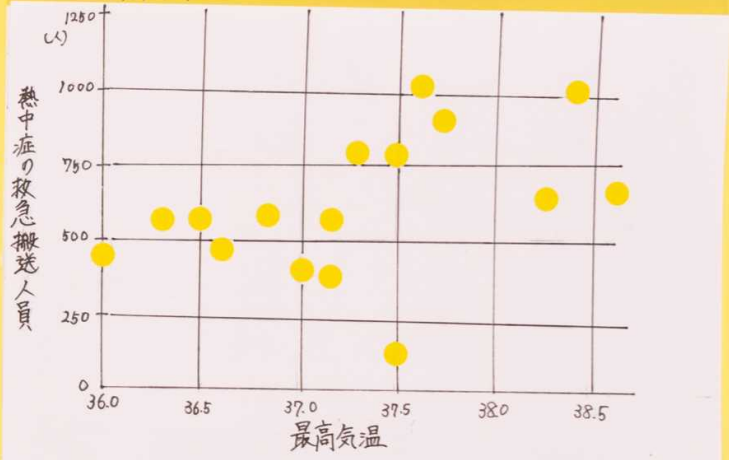
熱中症による救急搬送人員推移(香川県)

＜資料3＞



年別の「最高気温」と「搬送者数」の相関

＜資料4＞

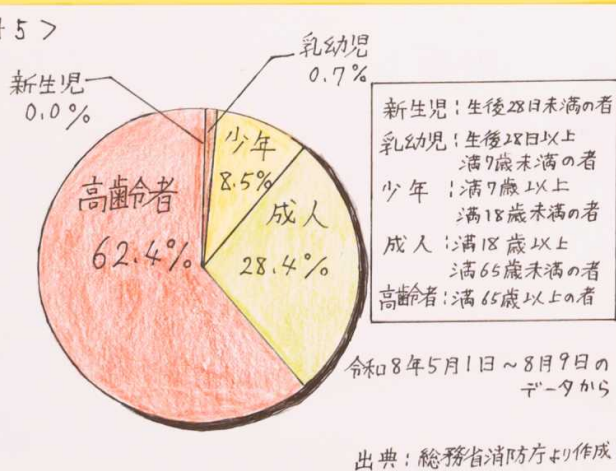


「気温と搬送者数の関係」
最高気温が上がると
搬送者数も増える強い相関が
見られる。35℃を超える猛暑日は
搬送者が著しく急増する。わずか
1～2度の気温上昇でも搬送のリスク
が高まる。

③要因分析: 誰が、どこで倒れているのか?

年代別の搬送者数割合

＜資料5＞

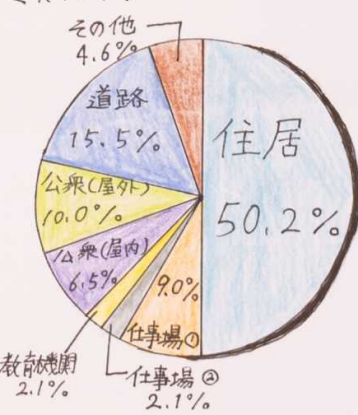


「暑さに負けた年代別選手権」

高齢者が半数以上を占め最も
高い割合となっている。猛暑では
体温調節が難しい高齢者の割合が
突出して高くなるため、年代に応じた
個別対策が必要不可欠だ。

熱中症発生場所別の割合

＜資料6＞



「どこでやられた? エンカウント率照 意外な場所がNo.1」

住居が50.2%と半分を占めている。
屋外だけでなく、エアコンの未使用、
室温上昇に自宅内で搬送される
ケースが最も多い。室内での適切な
空調管理と水分補給が重要である。

年別によつて
リスクが高まる場所や
タイミングが全く異なる
という発見が見られる！

2000年以降、猛暑日数が変動を繰り返しながらも
増え続けている中から、近年では地球温暖化が進んでいる
のが見られる。
それに伴い熱中症救急搬送者が増加しており、
これから長期的に増え続けることが予測できる。
具体的な背景に
高齢者は「室内・住宅内」
若者・高校生は「屋内・運動中」での発生が多いと思われる。
そのため「屋外での活動時」や「屋内での過ごし方」の両方に
熱中症対策が必要だと考えられる。
熱中症は正しい知識と毎日の予防で防げるため
こまめな水分補給と涼しい環境づくりが私達には
欠かせないと思いました。

その日あなたは 生き抜けますか？

「まだ大丈夫」が
一番危ない。災害は
いつ起こるかわかりません。
「知っている」から「備えている」へ！

① きっかけ

私はついこの前、熊本県で
発生した地震のニュースを見て、
地震は突然起こり、私たちの日常
が一瞬で変わってしまうことを改めて
実感しました。特に、メール熊本で
起きた爆発事故の報道を見て、地震
そのものだけでなく、二次災害の怖ろしさ
を知りました。そこで、今後発生が懸念さ
れている南海トラフ地震に備えるために
は何か必要なのかを統計データを基に
調べたいと思い、このテーマを調べました。

② 南海トラフ地震とは？

南海トラフ地震の発生確率

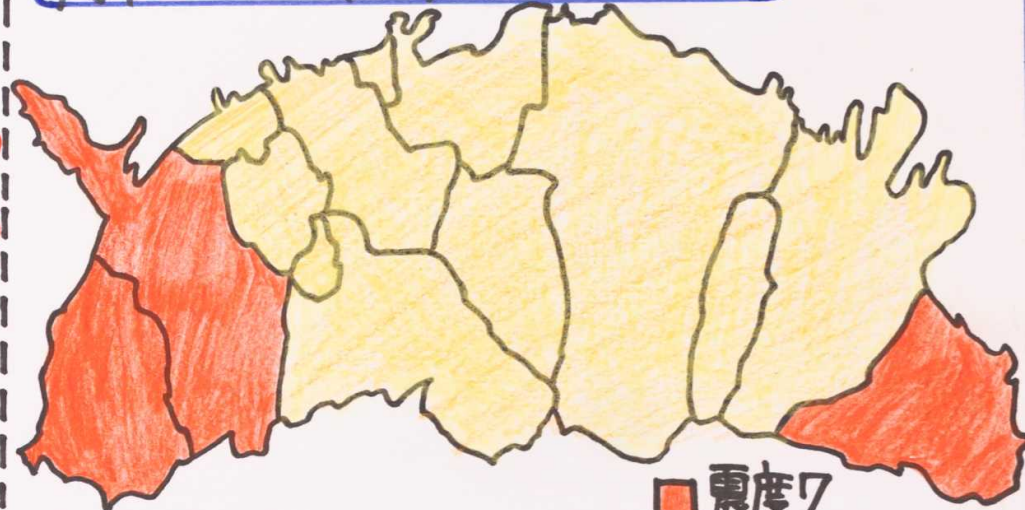
(今後30年以内)

60~90%

出典：地震調査研究推進本部
(令和7年9月発表)

想定される最大震度(香川県)

※島を除く



震度7
震度6強

出典：香川県公式
ホームページ

③ 香川県の過去の主な地震

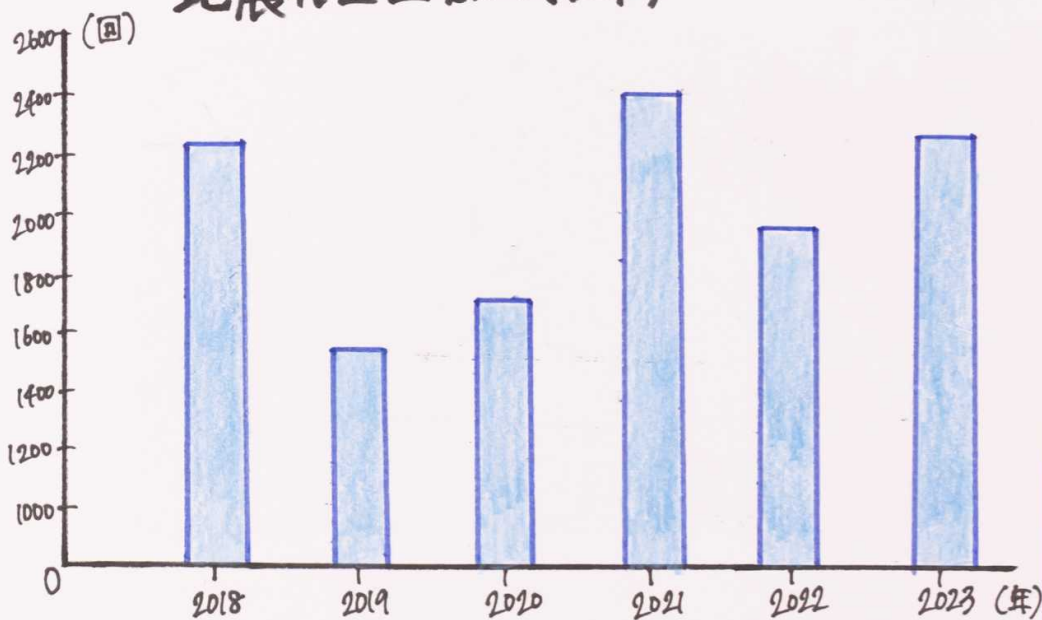
出典：香川県公式ホームページ

	地震名	マグニチュード	主な内容
1707年10月28日	宝永地震	M8.6~8.9	国内最大級の巨大地震
1854年12月24日	安政南海地震	M8.4	家屋倒壊や塩田、堤防 などに大きな被害
1946年12月21日	昭和南海地震	M8.0	死者5人、約3600戸の 全壊などの大きな被害
2001年3月24日	芸予地震	M6.7	建物一部破損10棟の 被害

④ 日本の自然災害の発生状況

出典：国土交通省

地震発生回数の推移



☆防災バッグに
入れておきたいもの！

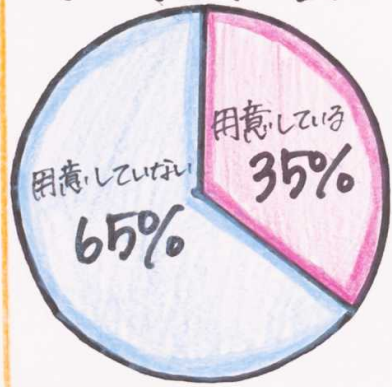
- 1位 懐中電灯・ライト = 84.5%
- 2位 非常食 = 79.6%
- 3位 飲料水 = 74.0%
- 4位 軍手・手紙 = 60.6%
- 5位 携帯ラジオ = 56.3%

今日の備えが
明日の命を守る！
「備えている」からこそ
命を守ることができる！
「今」できることから始めよう！！

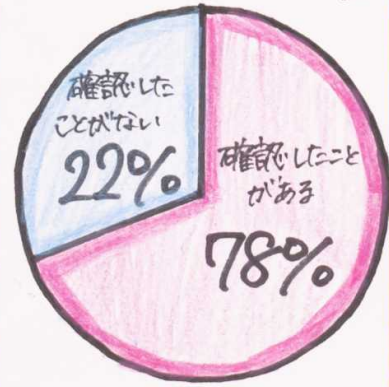
⑤ 防災の備えに関するデータ

出典：株式会社エコニテ

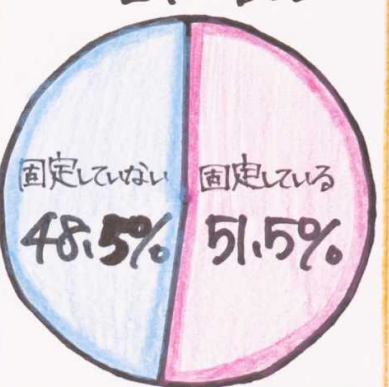
非常持ち出し袋を用意
している世帯の割合



エサドマップを確認
したことがある人の割合



家具の固定をしている
世帯の割合



⑥ まとめ・考察

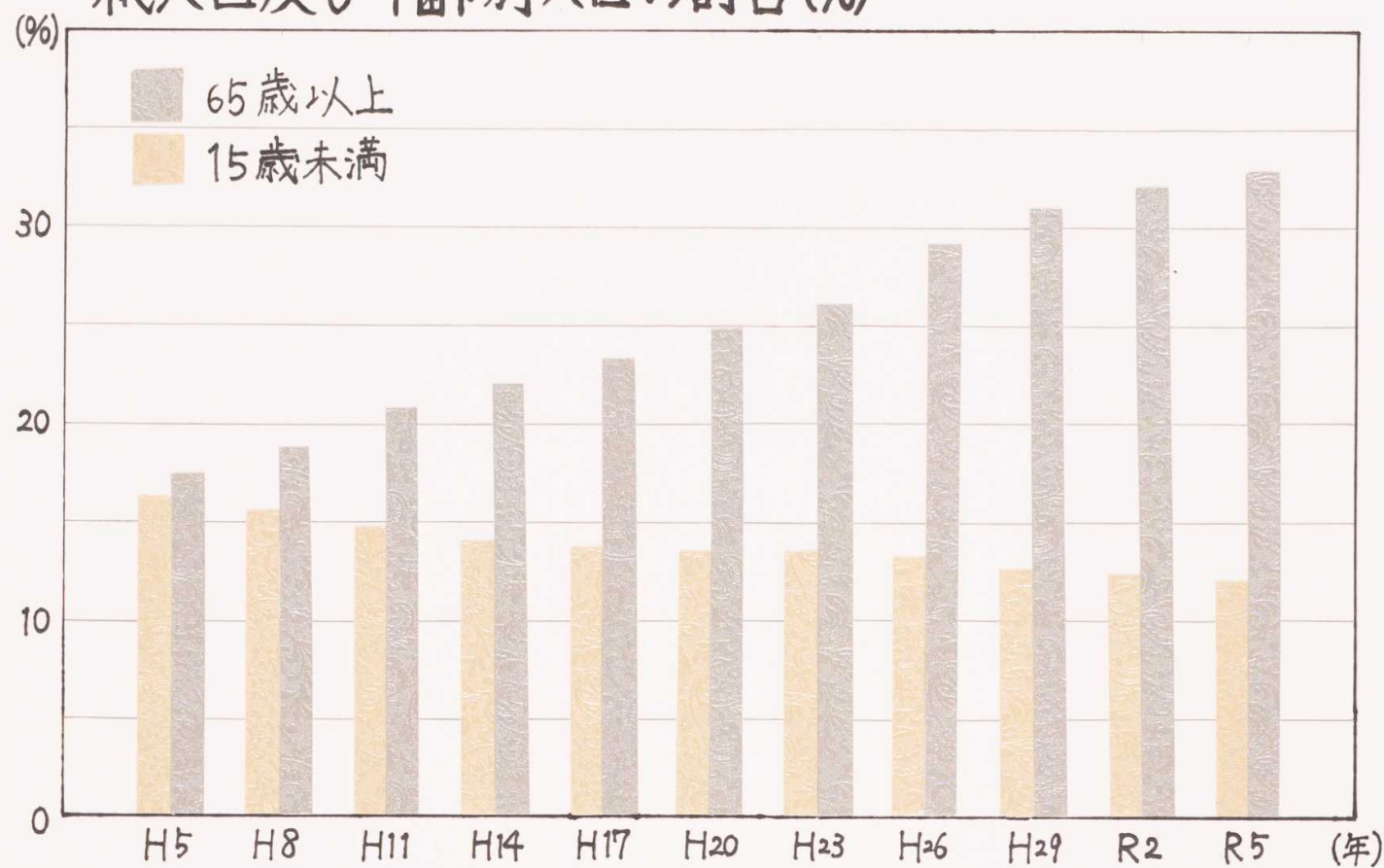
- 南海トラフ地震の発生確率は今後30年以内に60~90%と非常に高く、いつ起こってもおかしくない。
- 非常持ち出し袋を用意していない世帯が約65%、家具の固定をしていない世帯が約48.3%と、十分とはいえない。
- これらのデータから、防災は「知っている」だけではなく、実際に行動に移すことが重要。特に高校生も家庭で防災について話し合い、非常持ち出し袋の準備や避難経路の確認など、今できることから始める必要がある。

その「もしも」は今日がもしれない。

人口減少と高齢化

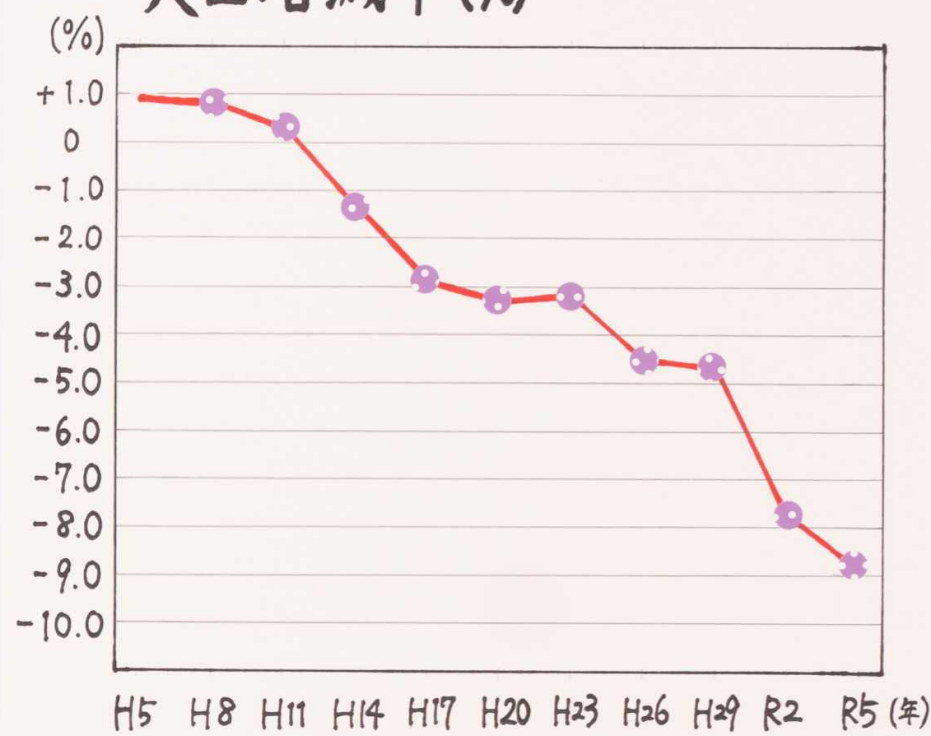
変わりゆく お墓事情

総人口及び年齢別人口の割合(%)



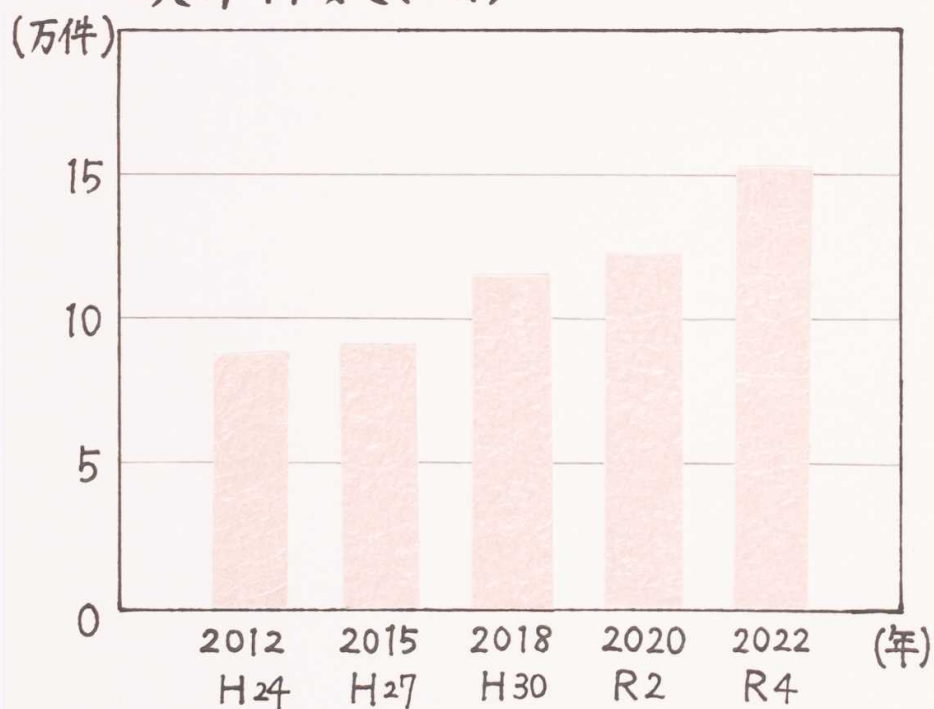
〈出典〉「香川県公式ホームページ」より (2025年1月28日)

人口増減率(%)



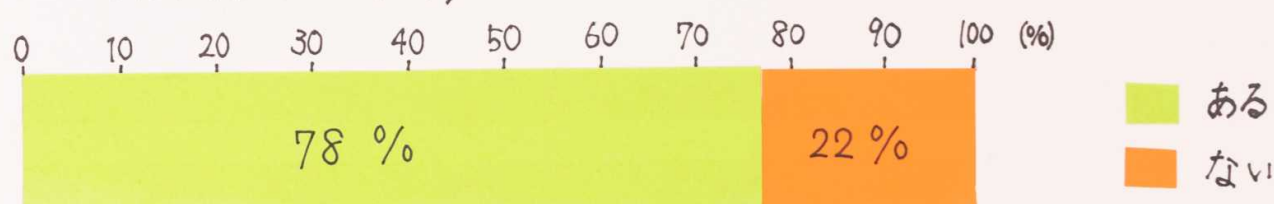
〈出典〉「香川県公式ホームページ」より
(2026年2月2日)

改葬件数(万件)



〈出典〉厚生労働省「衛生行政報告例」各年度より (2026年3月19日)

★ あなたまたは御家族が管理しているお墓
(納骨堂は除く)はありますか。



★ 家族が遺骨を永代供養にするため
「墓じまいをする」とした場合、反対しますか。



〈出典〉「高松市公式ホームページ」より (2022年11月2日)

改葬とは

遺骨を別の場所に移すことをいう。
一般的に、墓じまいをした後に、
遺骨を別の場所に移すため、
改葬手続きの一つに墓じまいが
ある。

～管理や後継者不要～

永代供養…墓地管理者が管理、供養
樹木葬…墓石の代わりに木や花がシンボル
海洋葬…チャーター船が沖合に出て散骨
バルーン葬…風船やヘリコプターで空へ早期
散骨

＜考察＞

日本の総人口は、年々減り続けており、全国的に少子高齢化が進んでいる。
香川県においても例外ではなく、15歳未満の子ども数が減少しているのに対して、
65歳以上の高齢者の割合が増え、およそ3人に1人が65歳以上の高齢者となっている。
これに伴い、お墓をめぐる現状は、大きく変化しようとしている。全国の改葬件数は増加の
一途をたどり、「墓守(後継者)の不在」や「高齢化によるお墓参りの負担増」が深刻な地域
問題になっている。香川県でも改葬件数は年々増加しており、先祖代々のお墓を守っていくとい
うかたちから、それぞれのライフスタイルに合わせたお墓の在り方へと意識的にも変化しているようだ。
様々なお墓のかたちが生まれ、それを選択していくことが主流になってきそうである。